

「情報」に関連して、論点とすべきと考えている項目(順不同)

- 数の上で圧倒的に少ないLinuxユーザを採り上げてその理念上の意味づけを行なおうとしているのにも拘わらず、莫大な慣性を有するまでに成長して実際に存在しているWindowsユーザの意味付け／分析をなぜ行なわないのか？
- “個人”の存在の有無に関して明らかなように、日米は本来異質な背景を有して現在のネットワーク社会(“Net”)に参加しているはずだが、なぜ米国における事例をもってNetの総体として断じてしまうのかー日本の独自性(特殊性)を看過するのはなぜかー？
- 現実には重大な問題となっているにも拘わらず“ネットワークセキュリティ”を論じないのはなぜかー現実の世界(安全保障)との明確な対照があるー？
- MSユーザ≡大量の初心者と“寄生産業”との関係を論じないのはなぜか？
- 「ソフト化」＝使途が自明であるもの(e.g. 白物家電)から自明ではないもの(PC)への移行、という視点が必要なのではないかーend usersにおける使途を如何にして創出するかー？
- 80年代の半導体産業(特にDRAM関連)を、「明示された方向性の下での成長」と見るべきではないか？→方向が変化してしまったために過剰設備を抱えており、現在では、「方向性を創出する」ことができる企業のみが生き残れるのではないか？
- P2Pなどの技術のセキュリティ上の問題点を全く指摘しないのはなぜか？ーデータ交換に用いるプログラムは決して自作ではない→自らのPCを他人の意のままに利用される危険性ありー
- 企業が技術情報を開示する(“Linux方式を採用する”)真意を理解しようとししないのはなぜか？ー当該情報は特定少数のものしか有効活用できない／従って、当該情報の使用方法を提示するという新たな有償サービスを提供する機会が必然的に発生する／社会に対してオープンにしているというスタンスをとれるー
- 現行のLinuxにおける「Linux型開発方式」の勘違い
 - kernelはLinus氏が最終判断
 - (商用) distributionの開発はまさに伽藍方式ーCS実現／新規ニーズ創出ー
 - ☆ 大多数のend usersにとっては、distributionの使い易さとそこにbundleされている商用アプリケーション＋サポートこそが大切(そこに対価を支払っている)
- 「情報」の重要性の変質の理由を指摘しないのはなぜか？ー情報操作だけでは決して製品はできないのにも拘わらず、なぜ情報のみをこれほど重視するようになったかー